

繪本通俗三國志

二編 六

21
221
16

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

JAPAN

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

TAMIA

3 2 1

m

4 5 6 7 8 9

2 1

0

方

221

16

學
本
志

王
中
華

繪本通俗三國志二編卷之六

目錄

董承密受衣帶詔

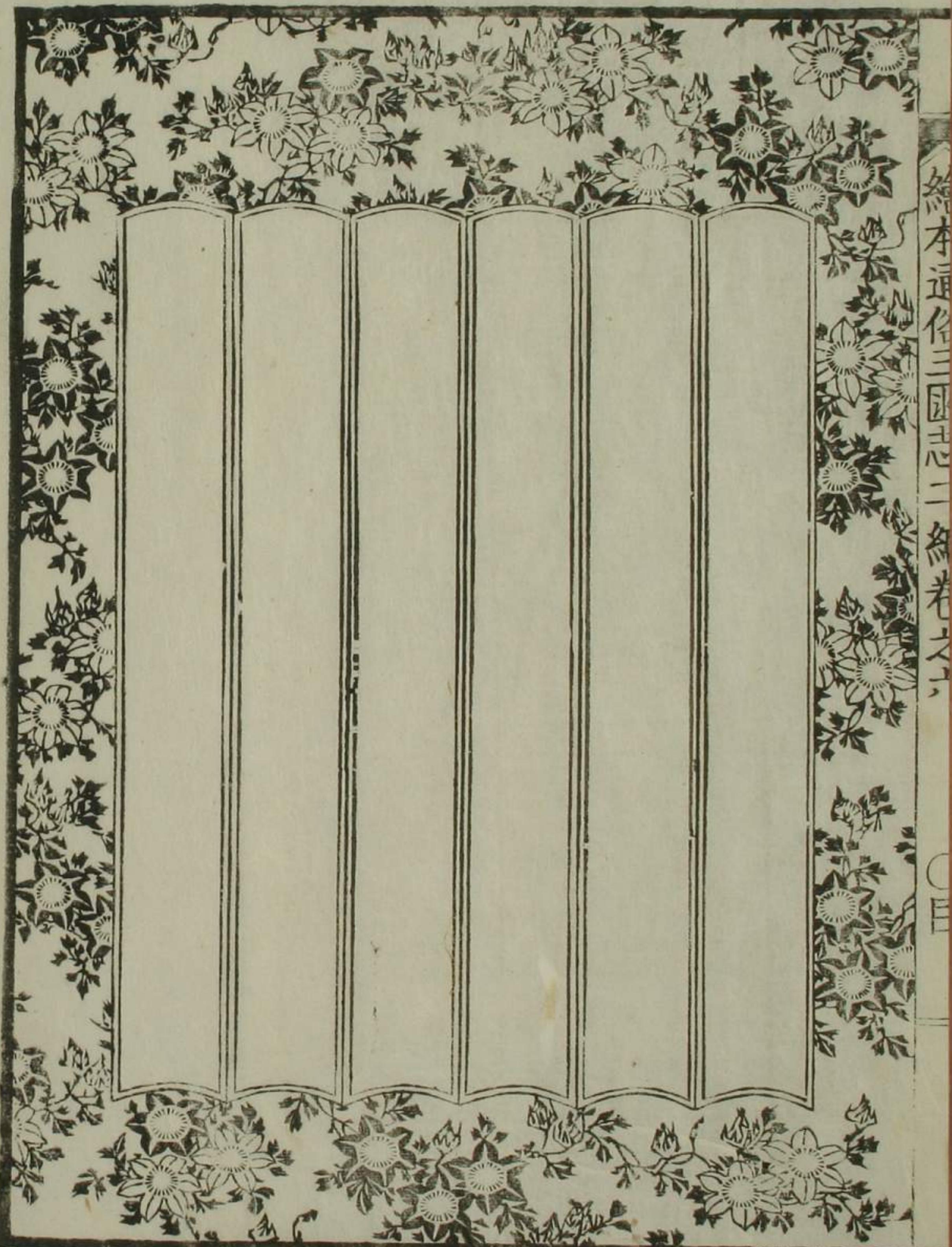
青梅煮酒論英雄

關羽襲斬車胄

繪本通俗三國志二編卷之六

董承密受詔書帶詔

帝の猶場す。還幸ありとその夜御涙と押さひとま休皇后
よ告げ宣ひる。哀れむ朕位よ即す。逆臣打流す世よ生。
述め董卓が死と受て後ヨ李傕郭汜が亂ヨあひ。一日序附ひ
安次とちうじ。曹操と得てよろあび。是ぞ天ト平定し。朕
が股肱こそ是なりぬべからぬと頼む。案の本クニ國の政事と不
じます。常々奸計をほこ。天ト奪ふとまちの巧あ。朕殿上よ
あり。針の檀も坐まざば。今日猶場ヨテ鹿と射取。朕が前ヨ立
塞がり。方歳と遅。一ノ大逆ノ糾と今かき。己が威勢と武
んこめる。朕夫婦まづある憂目よあひ。何く死人を知づに。



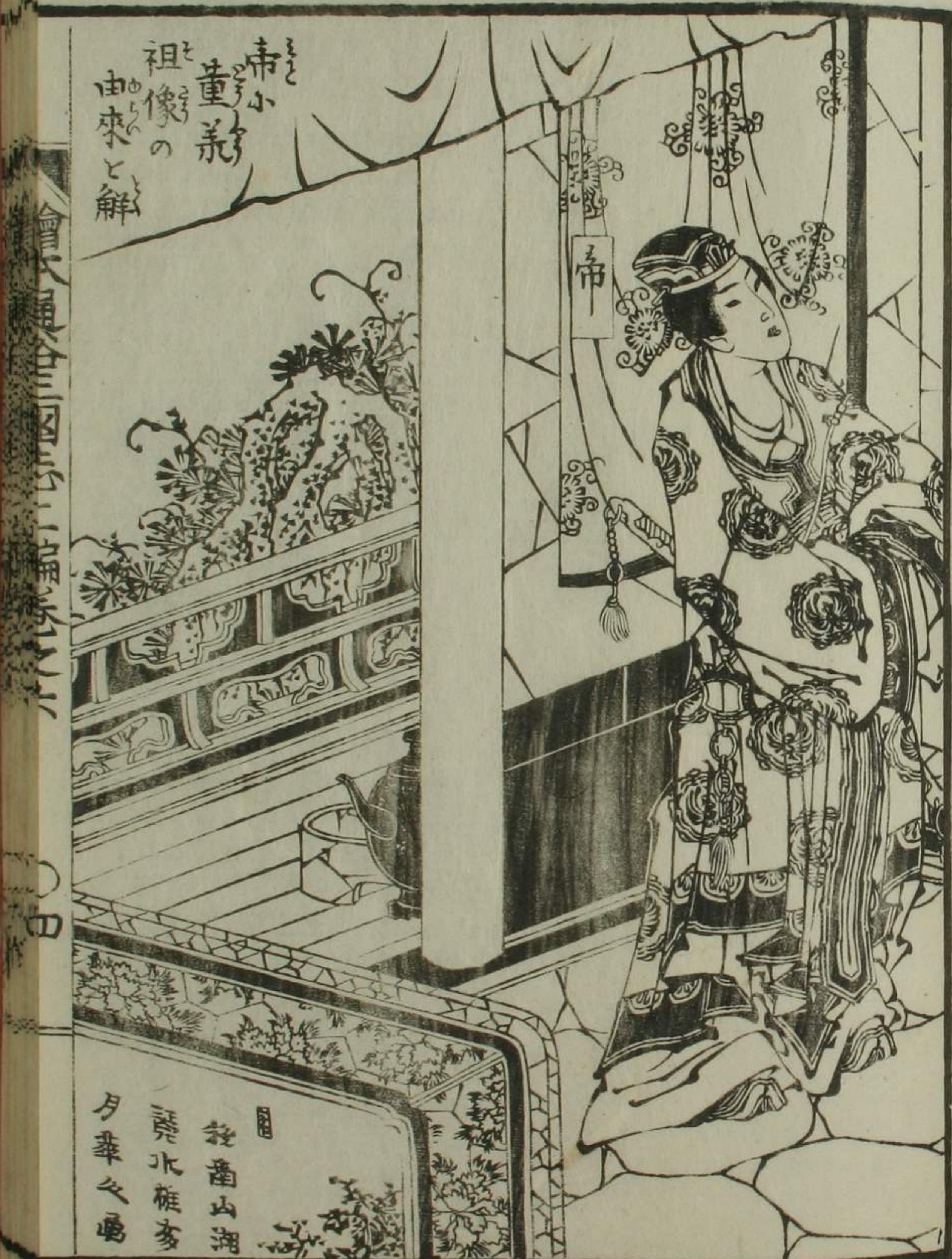
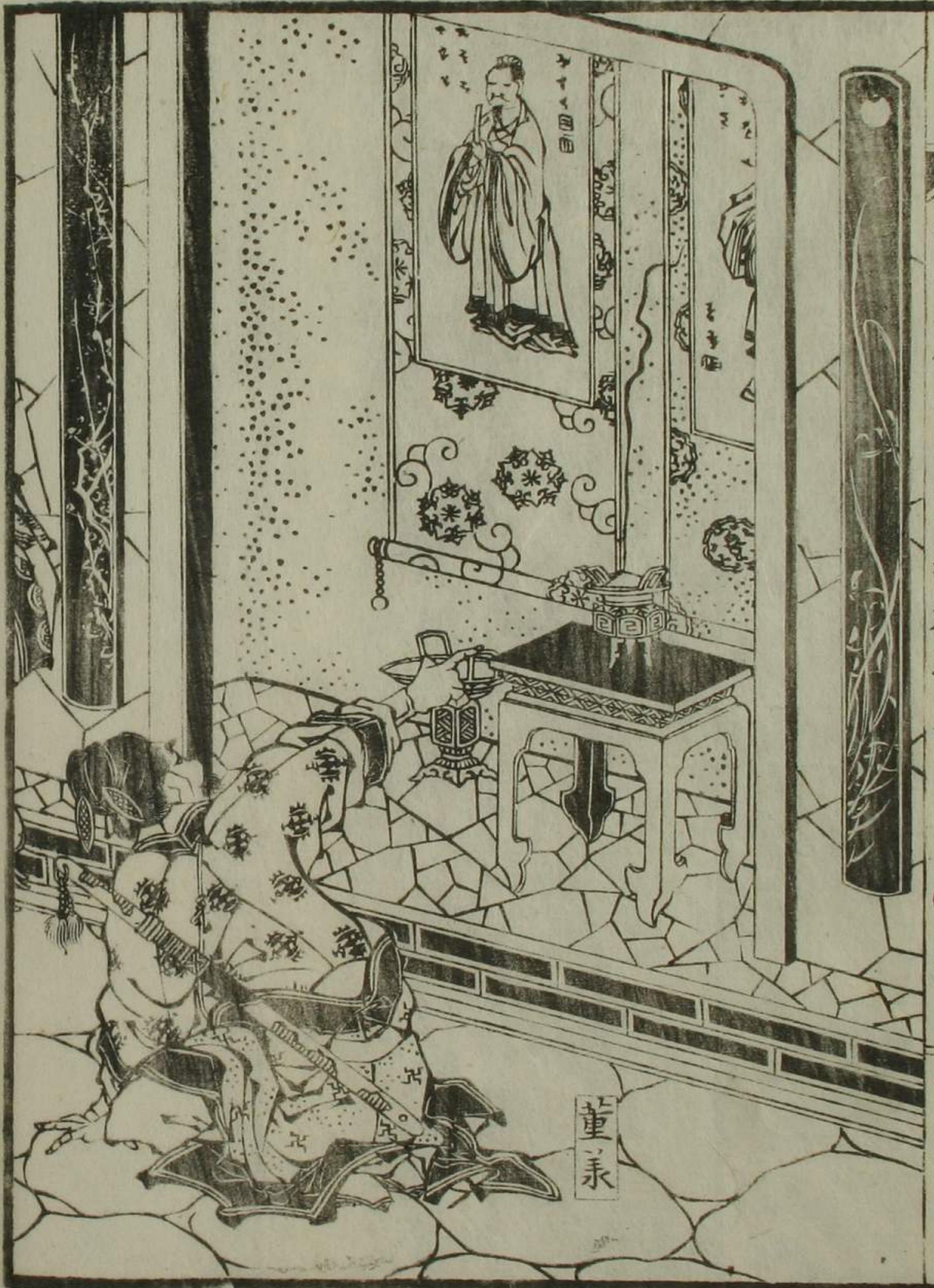
と。休傳ふきゅうせん。伏皇后。宣ひりく。朝廷の百官。四百余年漢の祿ろくを費ひらす。今一人忠ちゆうとほり。國の殃えいとそとくんと思おもふ。あらかじめ。哀あいをと。そと。そと。又哭まげき。外より來きこり。且用よ。がく。哭まげき。臣しんねが天下の害がいと除のぞんといふものあり。帝おとし。あらひとと。又。伏皇后の父おは休完きゅうわん。そりふ人ひとす。をまうち御みやこさん。また。自皇丈じこうじやう。朕しんが腹中はらなかの事ことと知しるかと宣のぶ。休完きゅうわん。やうべ。并田よなだ。鹿しかと射と。維い。歯はと切きらざらん。曹操さうばう。天下てんかと奪うながう。巧わざ。むじ。の趙高ちょうこう。よき。帝おとし。宣ひりく。朝廷の内うち。もぐく曹操さうばう。旨し。目め。り。椎くわ。いま。忠ちゆうとほり。是これ禍わざわざと除のぞくものあらん。休完きゅうわん。やうべ。陛下へいしや。の。き。幽戚ゆうそく。あらざん。おの大事だいじと。謀ぼう。べらば。臣しん六年六年。も。表あひらう。いき。車騎將軍しゃぎじょうぐん。董承とうせい。ハ。權けん。すく人ひとと服ふく。

士しそう。まよと。忠ちゆうと存こ。是これ人ひとと御みやこ頼たのむ。かるが。功ごうと。加くわ人ひと。帝おとし。宣ひりく。董承とうせい。むじ。朕しんと西都せいとく。よき。李傕りき。郭汜くわい。難なんと。逃なれ。む。其志きのの。わざと。朕しん。すく。あらま。ナ。と。やうめ。事ことと議い。休完きゅうわん。陛下へいしや。の。近侍きんし。を。も。あ。ム。ミ。小。曹さう。操さう。内うち。應おう。の。も。の。す。あ。リ。万。方。一。事。洩あふ。ト。よ。却きり。大。奇。獨どく。と。引ひ。よ。臣しん。すく。愚案ぐあん。と。や。ぐら。不。尋常よつじょう。そ。か。あ。よ。ほ。董承とうせい。と。や。や。あ。よ。と。か。御衣ごい。一領いつりょう。玉帶ぎょくたい。一條じゆう。と。姿すが。ひ。帶たすき。裡うち。密ひそ。詔せしめ。と。縫ぬい。へ。や。も。た。御みやこ。董承とうせい。う。あら。家いえ。又。えり。と。披ひ。陛へい下した。の。貴妃きひ。されば。が。づ。黙止だまし。が。と。や。登の。板いた。汗あせ。と。や。ぐら。ま。ご。帝おとし。あ。の。家いえ。ま。こ。よ。あ。う。る。べ。と。と。ひ。と。く。よ。人ひと。目め。と。あ。の。人ひと。御みやこ。指さし。と。いやぶ。血あか。と。あ。と。と。詔せしめ。と。書かく。休皇后きゅうこうじやう。よ。命めい。と。玉帶ぎょくたい。の。裏うら。紫し。

錦を以て縫あらさせ。みびらる錦の御衣と彼玉帶とと召れ勅と
ト。董承とまねひゆ。董承いとまく參内あれ。帝ちうくり
宣ひたる朕昨夜伏皇后ととも。長安より還りたると物語
も。李催郭汜。追きし者。拂身の忠とほ下く。さくに功勞
と。あひだ。あがへぞ後とあがせ。拂身の大功と。しまだ因賞と
あくと。さてあき」と。悔と。まよへ朕が左右と離しむべつこと。
あたる石寄とどやと宣へ。まよへ臣あんの功
あり。陛下の左右と侍をとと得へ。帝相伴と殿中と坐せ。云
ひ大廟と功臣閣と登り。みびら香と焚く。漢家歴
代の祖宗と拜し。壁と掛かる畫像と御覽あり。中間は漢の高
祖と畫と二十四代の帝と。両辺と列かけた。董承と書内。朕

先祖へいうある人を問ひ。董承やりと。さとみうち。陛下の帝
業とひらぬ。おひい。漢の高祖皇帝。あ。あ。御尋ね
ひど。帝宣まひたる。朕が先祖。い。ぐ。身とあほ。此基業
ひらき。ひど。卿あらまよその由來と伸よ。董承打あごろひ。
陛下ひき。臣よかられ。聖祖の事い。う。ど。あろ。一。も。され
「とのひがな。や。ア。ク。レ。バ。帝宣ひたる。朕故。あく。卿。問。辭。
る」と。あく。と。さと。や。う。と。祝。ま。象。や。り。る。高祖皇帝。泗上。臺
長。身。越。三尺の劍と提げ。白蛇と。毗。萬。陽。山。斬。義。兵。と。揚
と。四。海。と。縱。横。二年。秦。あ。う。ば。五年。楚。あ。う。ば。大
漢四百年の天下とひらひ。萬世の基と立。り。帝。嗟。宣。ま
る。祖父かの。お。英雄あれ。子孫。朕が。お。懦弱

董
義



帝小
董義
祖像の
由來と解

會上題句圖說卷之六

日

董
義
祖
像
由
來
解

董
義
祖
像
由
來
解

董
義
祖
像
由
來
解

あるものす。ちとあざむる劣るもの。両旁より立てる。何より人ぞ。
董承とうせい。上へ留侯りゅうこう。張良下へ鄼侯じょこう。蕭何しょうが。帝宣ていいん。まの三人いきる功あり。側そばより立たつ。董承とうせい。白高祖基業ひくそきぎぎ。用もち。是二人の功おき。張良とうりょう。蕭何しょうが。國家こなげと鎮しづ。百姓ひやくしと懷いだ。丘おかの糧りょうと通つう。不足ふそく。決けつ。蕭何しょうが。國家こなげと鎮しづ。百姓ひやくしと懷いだ。丘おかの糧りょうと通つう。不足ふそく。是二人の功おき。張良とうりょう。蕭何しょうが。帝宣ていいん。高祖こうそくはね。その徳とくと称めい。あり。あまきよ。御側ごそくらと
えふきに。帝嘆ためらひ。どうさまよ。社稷しゃけいの臣しん。ううと宣のべ。あう歎ためらひ。あう歎ためらひ。侍しともあれ。びんとう。董承とうせい。箭の。すうと。御ご。いま。朕わたくし。側そば立たつ。董承とうせい。頬首ほくしゅ。臣しん。功おき。是これ。とくあること。得いた。人ひと。帝ていいん。宣のべ。先年せんねん。卿きみ。長安ながやす。難ひじ。とく。功おき。とあゆ。朕わたくし。片かた肘ひじをさき。何なんと

もつやう。その功おきと顯あらわ。とと得いた。卿きみ。あの衣服いふくと玉帶ぎょくたいとと着き。勝かつ。左右さゆうと離はな。とふく。と親おやぢら御衣ぎよいとねがせ。ひ玉帶ぎょくたいと副そく。と。賜たま。董承とうせい。再拜さいぱい。とあきと受うけ。あらへ。と退步たいほ。と早く此こす。と曹操さうじょう。と告こる。とある。帝ていいん。いま董承とうせいと功臣閣こうじんかくへのおりゆ。といひ。されば曹操さうじょう。とこやう。馳來きはる。董承とうせいもとで。宮門きゅうもん。まことに。出で。ひれ。曹操さうじょう。あへ。はじめて。来くわ。と見え。と。急いそ。避さけ。路じ。まき。を。怖おそれ。戰たたか。と。門もんのかへり。と。立たつ。居ゐたり。曹操さうじょう。あらへ。と。問たず。と。下くだ。國こく。舅おじ。いはく。行ゆ。と。董承とうせい。答こたへ。と。曰いへ。と。天子てんしの召め。と。應こたへ。朝あさ。と。見み。と。見み。と。見み。と。見み。と。錦ぎよ。御衣ぎよい。と。玉帶ぎょくたい。と。ト。と。賜たま。へり。いま。退しりぞ。私宅わたくしや。と。回まわ。曹操さうじょう。と。れい。いま。あんの故ゆゑ。と。つ。と。賜たま。へり。董承とうせい。と。某ども。先年せんねん。長安ながやす。と。還幸かんこう。の路じ。次つぎ。と。奈なり。あひ。賊徒ぞくと。と。妨さまた。

功ありとゆふ。まきと賞ヤハドトトケ賜タマシヘリ。曹操ハ白シロ卸スル御ミ見せり。董承ムニシテあゆひタマシ。また又帝の御氣色アヒナカツカラ。いつまえある中ミナカツ密詔ミツセイあがむ入メシマスせみアラムと危モリを怕モリ。却タマシくねタマシ。曹操ハ士卒ハシマツ下シタマツ知シタマツ。うき解タマシ来タマシ。是ハ非アヒかく帶タマシとウソ。そモ打タマシ笑タマシやタマシ。さモかくアマシ好ヨシ王ウエ。その御ミ衣ハも又モせマれ。曹操ハ董承ハシマツ背タマシ行タマシとアシマツ。ゆむアヒとアシマツ得タマシ。はのアシマツ卸タマシ。けモにモ。曹操ハす内外ミナカツとアシマツ。日ヒの影ヒヅカとアシマツ。はアシマツをアシマツ。同アシマツひモうち我身ワタシの上アシマツをアシマツ。身アシマツ者アシマツ。王帶ウエヒをアシマツ。左シタマツ右シタマツのものアシマツ。内ミナカツそモよモ似アシマツ合タマシ。とアシマツ。こアシマツ御ミ長タマシ。應タマシ。似アシマツ合タマシ。荅タマシ。曹操ハ打タマシ笑タマシ。やタマシ。あアシマツとアシマツ。御ミ長タマシ。應タマシ。荅タマシ。曹操ハ打タマシ笑タマシ。やタマシ。あアシマツとアシマツ。御ミ長タマシ。應タマシ。直タマシ。ヤ受タマシ。別タマシ又モある回禮タマシ。とアシマツ。董承ハシマツ。白シロ君ヒカルの恩タマシ。賜タマシ。うろアシマツ。

主ハシマツはアシマツ丞ハシマツ相ハシマツ。いアシマツあれ。由タマシ所アシマツ望タマシ。主ハシマツ。曹操ハ白シロ御ミ邊タマシ。主ハシマツ内ミナカツ。針ハシマツ畳タマシ。あアシマツよモ。董承ハシマツ容タマシ改タマシ。ヤアシマツ。其ハシマツ。ゆアシマツ。ぞアシマツ。あアシマツらアシマツ。丞ハシマツ。主ハシマツ御ミ疑タマシ。ゆアシマツ。御ミ衣ハ。も。王ウエ帶ヒ。も。とアシマツ。献タマシ。曹操ハ白シロ御ミ邊タマシ。主ハシマツ。君ヒカル。賜タマシ。とアシマツ。董承ハシマツ虎口タマシ。の。ぐアシマツ。たアシマツ。地アシマツ。いアシマツ。私アシマツ宅アシマツ。入タマシ。御ミ衣ハ。とアシマツ。一アシマツ物アシマツ。ほアシマツ。主ハシマツ天アシマツ子アシマツ。おアシマツ。まアシマツ。とアシマツ。主ハシマツ。御ミ手ハ。とアシマツ。あアシマツげ。指ハシマツ。とアシマツ。何アシマツ。事アシマツ。仔アシマツ細アシマツ。あアシマツらアシマツ。とアシマツ。あアシマツい。れアシマツ。ごアシマツの。やアシマツ眠タマシ。とアシマツ。案タマシ。とアシマツ。大アシマツ。又モ玉アシマツ帶ヒ。とアシマツ。とアシマツ。理アシマツ。よアシマツ。らアシマツ。錦アシマツ。玲瓏アシマツ。白玉アシマツ小龍アシマツ。花アシマツ。穿タマシ。カアシマツ。とアシマツ。ほアシマツ。理アシマツ。よアシマツ。らアシマツ。錦アシマツ。とアシマツ。うアシマツ。せアシマツ。卓アシマツ。の。上アシマツ。あアシマツ。きアシマツ。とアシマツ。展タマシ。付タマシ。う。門アシマツ。まアシマツ。まアシマツ。古アシマツ。くアシマツ。ぶ。あ。お。金アシマツ。は。う。きアシマツ。と。膳アシマツ。る。と。つ。奴アシマツ。一。傍アシマツ。る。燈火アシマツ。風アシマツ。吹タマシ。れ。丁子頭アシマツ。

と落し。玉帶又焼はひて。ぬきおりられ打もうちて夢をも急
玉帶と取てこぐる。裏又重う紫の錦ゆ。破まつて。ちうた絹あらえ
より。あふづくへん付々。窺ひて。まぶす。すすみ血の色。切披
ひて出せ。すみかち白に絹。又血とりて書する密詔あり。その詔詞
又曰く

朕聞人倫之大父子爲先。尊卑之殊君臣為
重近者操賊出自閣門。盜叨佐輔之階。實有
欺罔之罪。殆連黨伍。敗壞朝綱。勅賞封罰皆
非朕意。夙夜憂思。恐天下將危。卿乃國之元
老。朕之至親。可念高皇創業之艱難。糾合忠
義。兩全之烈士。殄滅姦黨。復安社稷。除暴于

未萌。祖宗幸甚。愴惶破指書詔付卿。再四慎

之勿令有負

建安四年春三月詔

董承見ありて涙とあげ。まとも一天の君とて。奸臣よ懼され
せんとあらず。我ども何とぞ。頼まんとおもへられども。事の
魄くと怕まると。さあぐと御んとほくとまきわらみのあつとぞ。御い
よかく。あれよ思ふれば。寝食をとまき。行座をまくらだ。そ
詔詞と袖入る。書院よ立出。再三ひらひらと。曹擇と七さん計策を思ひ煩ひ少
は。書院の上よひらひら。曹擇と七さん計策を思ひ煩ひ少
睡り居る。日比ひつまく。支々侍郎王子服といふもの。案内を
きく出来り。直り書院よ入たる。董承書院よ倚て睡り袖の下ま

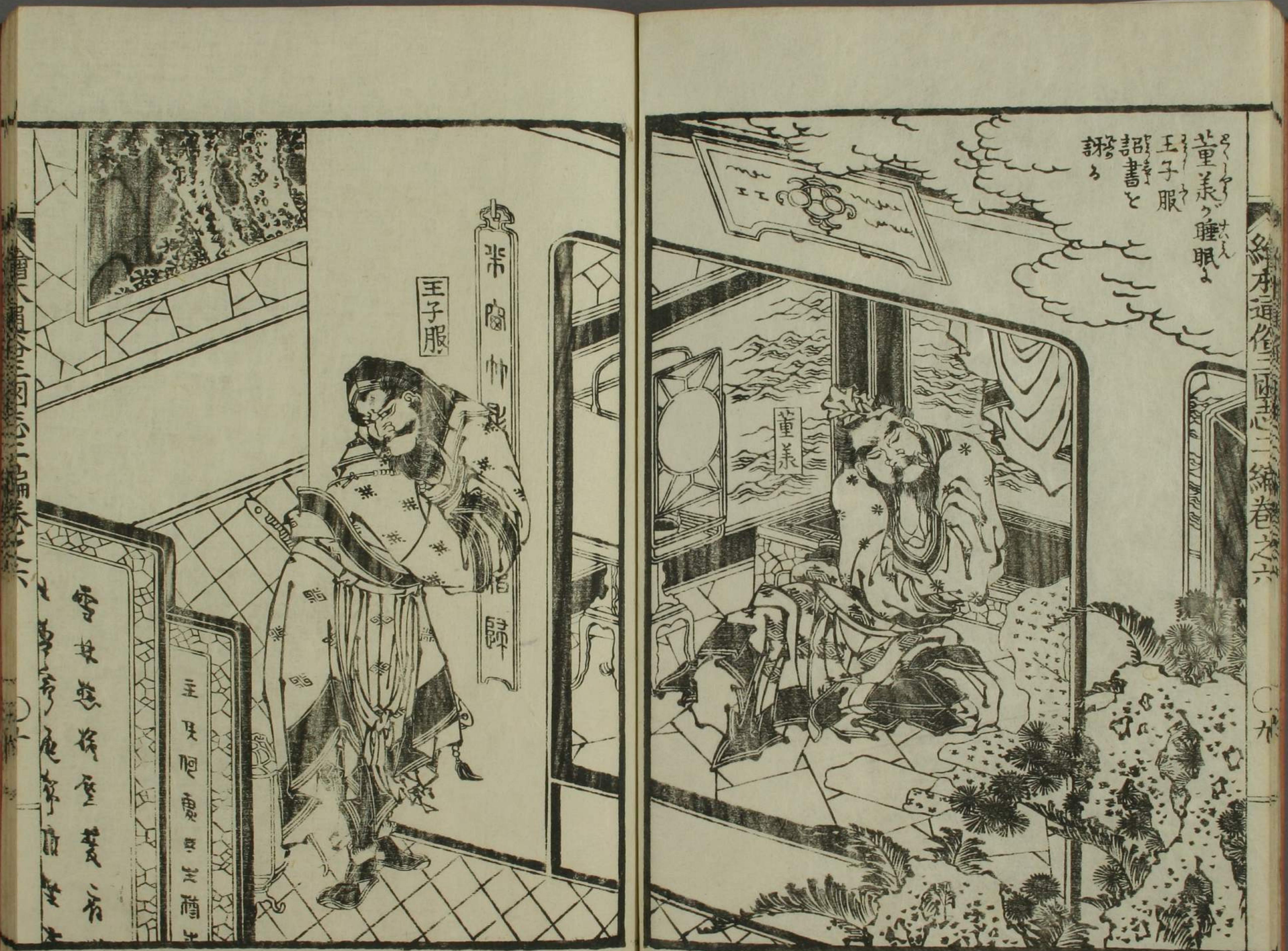
うな縞とじよ。さほ文字のみ入ればひそよ行なふ。朕の字あり。
祕の密詔さんどなまつた方や怪と。静ふ取て懷ふ藏し。董承
を喚まへて。よもと睡ふゝ人、うなやうひければ。董承うち
かく詔書と尋ねきどもえき。膽とひや。魂と失あひて振ひ
まへられ。王子服やくら。御辺の曹操と殺さんと巧みゆる。
ヨキあの事と斬へん。董承かはんぞやくら。御辺も訴へ出
が漢室あるとよ滅亡せん。王子服が曰あき戯まつ。御くと安
め。ヨキ累代漢の恩とかひむあぐらひで不義の行とせんね
ひくぞ一臂の力と抜け。ヨキよ國賊と殊とべ。董承が曰御辺謀
そ。ヨキと助る。あるとて。天下の幸甚ある。王子服やくら。家事
と處ゆべ。義状と書。三族とまで。忠とほくと本と。天下為ゆ
事と語る。計畧と書。居て居て。あらうと外より報じ。と
種輯吳頤まくならまくと。董承手と拍て王子服やくら。さ
ればとあのもども。御猶すうえり。曹操と疾める。我よ
告んと來まくる。是天の助ら。御辺まだくれよと。さ
屏風の陰ふか。自ら坐定く書院と請じ。种輯やく
る。御猶すうえり。足下を定と恨と舍のんあらん。董承が曰く

賊と伐の計畧とゆく。董承まくらを密室と取先と義状
と書み。けあら名字と押され。王子服も名字と書載將軍。吳子蘭
ひ。ヨキと文とひきとあはし。忠義のキヤ。あらうものう。あれ事と
たらが。うあら。喜んで力とほくま。董承やくら。朝中も長水校尉
種輯議郎吳頤。二人あと漢がもすとあり。よひ日間とあらび。是
事と語る。計畧と書。居て居て。あらうと外より報じ。と
種輯吳頤まくならまくと。董承手と拍て王子服やくら。さ
ればとあのもども。御猶すうえり。曹操と疾める。我よ
告んと來まくる。是天の助ら。御辺まだくれよと。さ
屏風の陰ふか。自ら坐定く書院と請じ。种輯やく
る。御猶すうえり。足下を定と恨と舍のんあらん。董承が曰く

恨あり。もと。大きやうひのす。呉碩やひるい。力と合ひきものあらむ。
又き誓言と。國の賊と。誅せん。神涙やひく。天下に為よ害と除く。余と失
ふ。と。あくび惜人。と。死。屏風の後す。王子服そよと出で。やうる。你
ホ曹丞相と。あくまと。巧ひ。うきあひ。訴へよ生。董承の記。據
立。又。神涙を。うぶ。怒り。と。ヤク。忠臣の余と。あすだ。を。きた。死
さ。と。漢の鬼と。うう。と。賊と。対人。董承大。と。笑と。曰。と。ま。余さ。す。
と。ぎ。あの事と。議。居。と。二人の來り。あ。と。う。と。と。料らん。ごと。戯れ
と。う。あ。と。う。と。天子の密詔。と。い。と。へ。神涙。呉碩。ひらた
ス。と。と。は。族と。あ。じ。と。董承。ま。の。ち。義状と。取。か。と。二人の名字
と。書載。され。手。服。喜。で。ヤク。皆是。御待。と。吳子蘭。と。よび。来。ん。
と。走り。出。と。が。須臾。ふ。と。伴。來。る。吳子蘭。も。義状。と。名字。と。

記。し。と。る。と。静。う。る。密室。と。入。酒。と。飲。と。計畧。と。議。と。う。る。又。わ。う。す
西涼の太守馬騰。きた。き。と。報。だ。董承。い。と。だ。人。と。い。と。あ。あ。い。と
病。と。休。と。見。ゆ。と。何。と。い。と。い。と。い。と。報。れ。馬騰。い。ま。と。ヤク。と。見。日
東華門。と。恩賜の御衣。と。署。と。歩。と。見。と。何。と。と。虚。病。と。
對面仕。ふ。の。ど。と。き。と。と。本國。と。回。ら。ん。と。事。の。あ。え。あ。う。と。あ。う。と
来。れ。り。あ。う。と。情。あ。く。と。あ。ふ。と。ふ。は。ね。と。深。く。恨。み。られ。と。董承。あ
き。と。聞。と。己。と。と。得。ざ。と。歩。む。と。馬騰。内。と。入。り。と。ヤク。と。某。と。醜
蕃。の。守。り。た。と。と。う。つ。と。ま。天。子。と。朝。拜。と。本國。と。回。と。ち。う。と。う。と
圓。圓。の。天。子。の。御。外。戚。國。の。大。老。あ。う。と。う。つ。と。謹。と。と。禮。す
不。ふ。と。う。と。へ。と。う。と。と。運。歩。と。と。仕。ふ。ひ。と。董承。と。白。ち。う。と。う。疾
病。と。染。ん。と。う。と。運。へ。と。罪。の。大。あ。う。と。山。海。の。お。と。馬。騰。と

董美タケルミが睡眼スイエンよ
王子服タケルフと
詔書シカクシを
説く



多足下の面も春色と含んで。病ありと云ふ。董承あつて
たゆう。默然として居たり。馬勝座と起る。まことに柱石
の才。あらへどりて回らんと。董承の一言とまじふ。再拜して
あしづめ足下をもとめ。柱石の才。あらへどといひ。と問ふ。馬
勝曰。許田の欄。鹿と射て。すが恨。肺腑は徹き。足下はも
うち天子の御舅。すが恨。徒然と。君とまことに思ひ。かくの
おとく。よし居れど。董承まで詠うて。疑ひ長嘆。やう
る。曹操。世の棟梁。をなべど。又。馬勝怒。御邊の
人。曹操と。おれど。人を。かみひゆ。董承が曰。人のきく。も畏い。ま
ゑと。低く。馬勝罵。罵。生。貪。死。と。怕。ものと。大
事と。議。と。く。と。そ。又。起。や。安。と。董承。言。と。く。と。探。と。

右は忠義の。詔。り。る。かく。へ。か。れ。た。書院。は。伴行。そ。さる。紀。る
も。ヨリ。元。來。曹操。と。詔。き。る。計。畧。と。や。く。り。せ。ど。も。も。や。足。ト。乃
詔。り。と。探。り。そ。ん。為。よ。來。モ。ひ。ふ。う。と。危。り。け。り。と。忠。義。の。御
事。と。議。と。く。と。そ。又。起。や。安。と。董承。言。と。く。と。探。と。
く。あらぶ。かほ。よ。藏。一。や。ま。ぐ。と。と。さ。ま。の。ち。密。詔。と。東。い。に。そ。見
せられ。馬。勝。齒。咬。と。て。や。う。足。下。も。肉。應。一。も。某。ハ。西。涼。の。大
軍。と。起。と。そ。う。と。都。へ。以。上。ぐ。と。と。髮。鬚。も。倒。下。上。り。感
激。と。そ。中。す。血。と。あ。ぎ。董。承。同。志。の。人。と。召。い。と。義。狀。と
い。せ。れ。ば。馬。勝。も。名。字。と。書。載。盟。と。て。が。る。ま。と。で。六。人。志。と
と。り。う。も。十。人。す。か。ま。と。じ。ん。事。う。き。と。だ。成。就。せ。ん。董。承。う。朝
廷。の。旧。臣。を。う。る。忠。義。兼。備。の。人。稀。あ。う。容。易。よ。語。ら。ぶ。又。と。そ
ざ。ひ。の。本。と。あ。ら。ん。馬。勝。と。ま。ち。朝。廷。よ。列。坐。の。鷺。行。鷺

序の記録と取て一ヶ點檢して詔らうべし人を相議し漢室の宗族といひて手と拍とやうやくまことに究竟の人あるかの人に詔らう。事うるべどそのひん董承王子服ホヤクハ誰うそひ。馬騰う。口をもことかす。豫州の刺史劉玄徳と詔らう。自餘の子人も優べ。董承う。玄徳ハ漢室乃皇叔あれども。いま曹操一味りと交りのあへと兄弟のあへいと。ナの事は與せとべき馬騰やう。玄徳のふとま。曹操とあらさんとをう。先日許田の獵。二カ歳とむべと紀。関羽いつとまでも曹操は斬と。蒐らんとせり。玄徳目くばせりと。せんじき一丈。関羽刀と以て出ざりた。まきとおふ殺ととわゆがさよあら。曹操う。丘多にしそと。が力の足ざると恐れてう。足下まろま。諸らひ。吳碩やう。

あの事まうとあらん。人とよくふゆ秘と。重とまく相聚んと。あとぐくまきと回る董承はばねのねう暗絲。密詔と懷よ納め志のん。玄徳の館と行ひ。玄徳あらうたあはみ出むえ。引と小閣と入れ中。あらんぞ。御出へ。いとうかと憚り。馬と間まふ。董承アラシ白晝よまなら。曹操が疑ひとと憚り。馬とも乘ざり。ひとう来る。玄徳酒宴ととくとく持めり。董承やう。先日許田の獵。关羽とと曹操と斬んとせり。足下急と。目くばせりと止む。さうあるべど。玄徳色と失くすとあをき撃る。是と事るよと知りふどと問。董承やう。他人あへと知ものほ。吾へを傍えあつと。ひととと得てう。玄徳かくとくをう。う。弟曹操作君と欺くとりと。あひびく。斬人とせーあうと宣す。董

承きひと面と掩て哭きなれを。玄徳問そ曰。いゝあるとありて哭へよ
ぞ。董承とうせい曰。漢の朝廷けんていよも。関羽かんうあとの根ね。わちくら忠臣ちゅうしんあらへ。何
ぞ。平へいまのざまのざと患うなづせん。玄徳げんとくの内うちよあまく。曹操さうばううそとさせ
ざらん爲め。右うをもるものあらんと思おもふ。曹丞相そうじょうす。圓えんと治はらむ。え
ぞ。患うなづることあらんとひあく。董承とうせい色いろと変かわ。トヤク。脚邊かくへんの太子
の皇叔こうしゆ。まきあのゆへ。實じつと告ご。あまきと訴うたがと思おもひ。玄徳げんとくの曰。我訴わたがうたが
あらんと。恐おそれと。戯いたずらと。歎たんと。悲憤ひひんと。涙なみだと。董承とうせい曰
覧らんりといひ。玄徳げんとくひらめく。悲憤ひひんと。涙なみだと。董承とうせい曰
是これ賊ぞくと伐なんと。味み同心どうしんある人ひとあれ。義ぎ状じょうと
書か。堅かた盟めいと。せうと。かか。玄徳げんとくあきど。第だい一車騎將しゃきじょう
軍ぐん董承とうせい。第二長水校尉ちやうすいこうい种輯しゆしふ。第三昭信將軍しょうしんじょうぐん吳子蘭ごしらん。第四工部
あくへ。洩のぞり。ちうと。ども。議ぎと。五更ごごの。よひ。よひ。こと。董
承とうせい曰。家いえよりへる。

青梅煮酒論英雄

玄徳げんとく曰。董承とうせい。まともやらき。ひそく。曹操さうばうと。村の計畠客けいけき。あらへ
され。そ。其その疑なに。ひと。避さけ。人ひと。常つね。み。後園こうえん。野菜やさい。と。に
り。水みず。と。そ。死し。董承とうせい。と。ま。人ひと。日ひ。と。ま。ほ。す。関羽かんう。あ。を。と。何なに。と
そ。兄あに。いま。馬ま。の。道みち。と。掛か。小こ。人の。事こと。と。學まなぶ。野菜やさい。と。化か。と。日

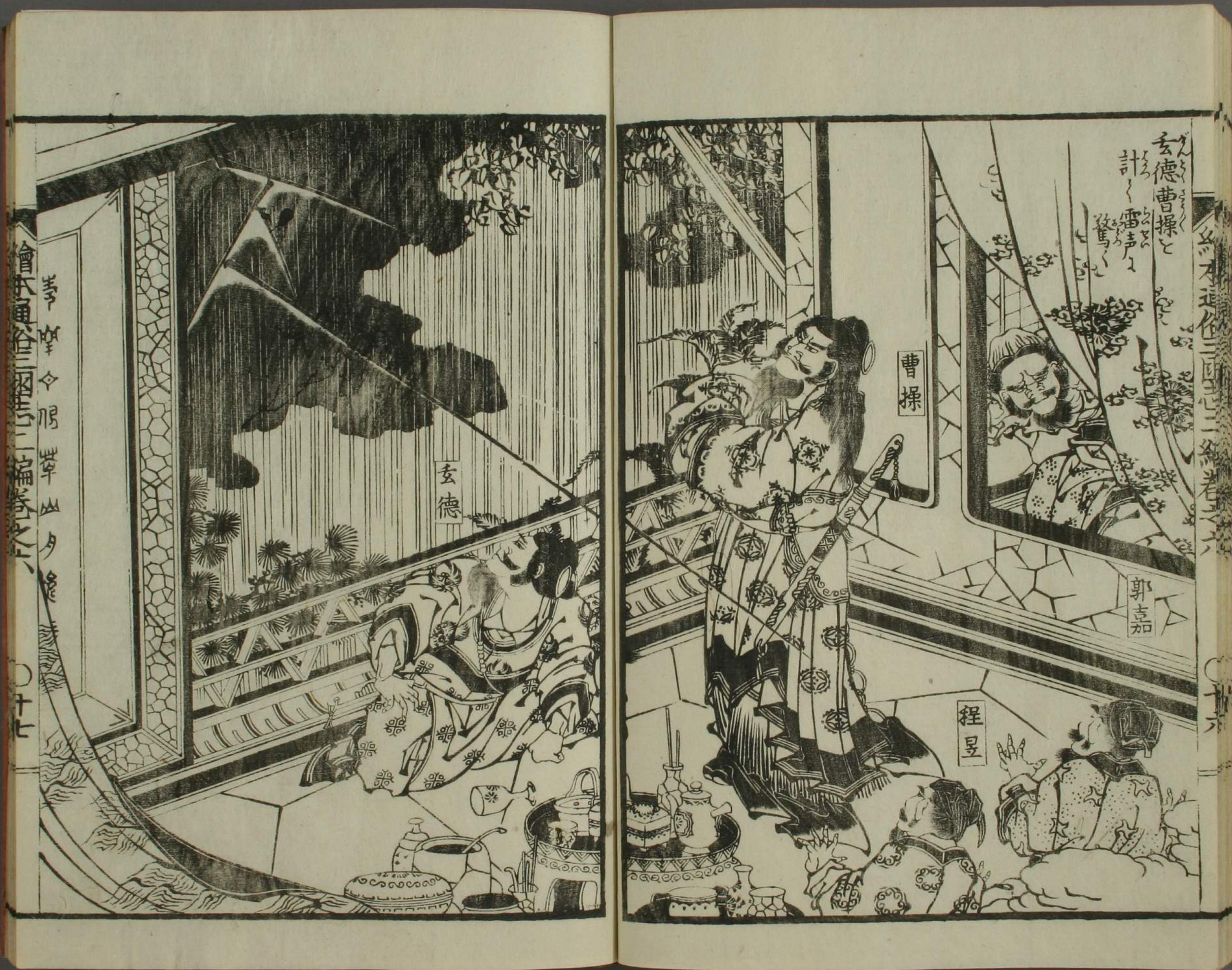
と送りゆかひある丈じと問ふ。玄徳お笑てわき。城うへんあり。你ホ
か志うねよあらだと答ふ。室をよすりと関羽ハ春秋と蔬。あひ
馬ニ乗弓と射と日と送る。あを死。關羽張飛二人おつみぬ。弓と
射。タキハ。玄徳。うづら後園。水とそぎ居のふをもうり。許
褚。張遼二人。十騎。ありと引と出来り。曹丞相の命あり。主を相
府。ヨウ。ソイ。玄徳。わがろひ。いま何の用あり。召れ。ゆどと聞
ゆふ。許褚。あゆへと答へどや。いふ。く。率ゐ。思。あら。いと
相府。ほい。と。曹操。色と正。す。御邊家。さう。何の好
ふ。う。玄徳。お。意。を。ち。終。死。を。對。す。能。す。面。の。う。あり
ま。曹操。手と執。後園。か。野菜。を。ゆ。て。樂。ま。と。玄徳。と
ま。始。て。心。と。安。ん。ド。先事。の。日。と。糸。と。開。冷。と。ま。れ。人。爲。

と答ふ。曹操。うだり。あく打。笑。ひ。よ。ま。ま。な。小梅。の。熟。せ。ま。ふ。
と。去年。張繡。と。征伐。サ。と。途中。水。す。て。兵。ま。渴。
と。苦。ミ。され。ば。ま。き。と。一計。と。生。ト。向。梅。の。林。あ。と。年。行。と。是
と。取。と。ひ。し。ふ。兵。ま。き。と。実。う。と。と。急。ま。と。も。あ。と。口。中。と。津
生。ト。遂。と。渴。せ。ざ。り。と。思。ひ。と。ま。小梅。と。採。と。賞。散。せ。ま。を。
い。え。や。酒。と。煮。や。と。熟。せ。う。御。邊。と。共。ま。小亭。と。會。と。樂。ひ。と
い。ひ。し。を。玄徳。あ。う。と。と。相。從。ぐ。と。亭。中。と。青。梅。と。山
の。が。と。と。鹽。と。貯。二。人。對。坐。と。酒。宴。と。あ。半。酣。と。い。り。と。俄。と。雲
起。と。急。雨。と。催。と。側。あ。る。人。と。あ。き。と。虛。空。と。龍。鼻。り。ひ。と
い。ひ。え。と。曹。操。欄。干。と。凭。と。遙。と。望。と。玄。徳。と。問。と。う。御。邊
変。化。の。道。理。と。知。り。と。へ。と。玄。徳。答。と。白。く。某。い。ま。だ。と。と。曹。操

やる。夫龍ひと大よき小よき升す。惡大をとひ霧と吐雲と興す。
江と翻す。海と捲す。小よきとて頭と埋み。凡と休。今と惡し。形と藏
升す。空と宇。宙の間と飛揚す。惡と死と被濟の肉と休藏を。龍へ
本。陽物す。時と從り。變化を。方と。いま春深す。その時と得す。
縱横も。あのゆゑ。龍與を。九天と升り。人志氣と得。四海と
人と相比。それ。龍與を。世の英雄と比。御邊。四方と經歷す。
まことに。當世の英雄とあり。人何人うと思ひ。さう。さう。曹
操。玄徳の白。まこと。亢史の眼と。あらわす。ばくと。英雄と。あらわす。
操。白く。辞退。仕むひと。胸中より定め。ふむ。ひそむ。玄徳
の目。まこと。丞相の恩顧と受く。朝廷と仕む。せざる。英雄といひ
あらわす。曹操。まづら。ちりぬが。定め。名と聞ふ。まこと。
あらわす。曹操。まづら。ちりぬが。定め。名と聞ふ。まこと。
ねがふく。世俗と。もと。論ど。え。玄徳の白。淮南の袁術。兵精く。糧
足り。英雄といひ。曹操。笑ひ。袁術の塚中の枯骨。と。見
あはれ。不日。生捕人。玄徳の白。河北の袁紹。四代三公と昇り。門下
よ故吏。まことに。冀州の虎踞。と。手下の大将。計畧と。あはれ。役
と。あはれ。英雄といひ。曹操。笑ひ。白。袁紹。色厲。と。膽薄。
奸謀。決をと。あはれ。大。よき。あはれ。身と惜。小利と。金
と。脣と。あはれ。か。癱瘍の軍。いそぞ。英雄と。と。得人。
玄徳の白。荊州の劉表。威九州と鎮。と。八俊と。うち。英雄と
いひ。曹操。あき笑ひ。劉表。酒色と。溺る。あはれ。英雄と
こと。得人。玄徳の白。吳の孫策。江東の領袖。血氣方と。剛。英
雄と。あはれ。曹操。笑ひ。白。孫策。父の名と。藉。黃口の小兒と。

あんぞりよ足人玄徳の曰く。益州の劉璋へ英雄といふべし。曹操
自劉璋の門を守る太守。ひづくと英雄といふ。玄徳の曰く。張繡
張魯韓遂が軍のいえ。曹操手を拍て笑ひ。玄徳も皆聴く。人を
いふよ足人玄徳の曰く。よ外。よ某が知る人へひづく。曹操が白夫
英雄の胸又大なる志氣と懷き。腹又良計と隠す。宇宙を包藏
する機天地と吐呑する志氣ある。玄徳の曰く。ま難うすかくの
まことある。曹操手をもつて。玄徳を指さし。又がうるまこと指
さし。さやく。今天下の英雄。唯御辺と曰く。二人あり。その言
まごときからむる。大雨と降來。雷の鳴る。天地もく
づく。おとこなじく。玄徳はひき。手ふ持ち著とさう
ねまわす曹操をかきまよす。玄徳答へ曰く。聖人も迅

雷あり。風烈に生き。おもひ必至。変をひき。一震の威かくの。と。
曹操やうへ雷ひ。おもひ天地のみをあく。おもひに怕とあらん。玄徳
の曰く。おとこ幼少す。雷と怕き。身と藏む處あひと恨む。曹操ま
きとき。旅りとひ要すとあひだ。玄徳と無用の人ありとあらひ。
あひ女とど居り。關羽張飛の城外に出す。子と対し。豪
よ飯す。玄徳とるぬれ。張遼許褚。相府は伴ひ去りとや。と
あひうそおひ。急き相府が弛す。後園は突とへて。番のもの。む
らびり集ま。推止やへとひし。たゞ。おとげ。践倒。たまよ小亭の
前まへ入へ。玄徳と曹操と相對して酒と飲をかへ。外は立
て。向よ入へ。曹操までとて。と問へや。二人ふまとて此
よ来し。關羽答へ曰く。某二人丞相の兄とまねひと。酒宴へとて



第三回 關公與三國志圖

卷之六

三

すと謀反スケイハシ。劍と刃スサノと一笑セイカとて所爲トモカニ來り。曹操カイウの名
と推スル。がむりあくよらひ。古イミの鴻門カクモンの會カミ。あらだ安アラダ
項莊カクザウ、項伯カクボクともらひんとのひなれ。玄德カイノミキも亦大カタバ矣。ゆえに曹操カイウ左
右カツメイのへよ命トモカニ。樊噲ハニイ。酒サケと給サケへひひれ。在カタマリ。關羽カナヒ、張飛カヤウ。拜謝カイセイ
と酒サケと飲カク。酒宴休カタマリ。家カミを取タケル。關羽カナヒ、張飛カヤウ、其カミ二人。兄エリ
ひとり出ヒテゆカミと聞カミ。徒事カミあらんと存カミ。外カミは敵カミ也。玄
徳カイノミキ。野菜カミと落カミたカミと語カミ。關羽カナヒ、張飛カヤウの意カミをきく。玄德カイノミキ
の曰カミ。野菜カミと化カミり。雷カミと畏カミる。是カミ。曹操カイウとあらじえ爲カミの術カミ。
曹操カイウの糧カミの患カミ。紀カミものあれ。を日夜カミしきに覗カミ。而カミを聖
菜カミと化カミり。みだらに糞カミ土カミと搬カミび水カミとそぐカミとある。武藝カミの志氣カミ
あれ。あらじえ。又カミ著カミと落カミたカミ。

ヨリカミとさへ。天下カミの英雄カミといふ。まきい氣カミと益カミへばう。不カミ。俄カミよ雷カミあり
もカミ。かくぶ。大カミよ畏カミを体カミほして手カミふ持カミる箸カミを。曹操カイウもまきカミが
ろカミ。小兒カミのぞカミあらへ。志カミうそカミ。我カミよ害カミも。心カミも。と
詔カミり。之カミ。關羽カナヒ、張飛カヤウと高明カミ。あら猪カミ。ほの日カミ。曹操カイウ又カミ玄德カイノミキ
とまねひカミ。酒宴カミも。不カミ。滿寵カミが帰カミを報カミ。来る。曹操カイウ呼カミせ問カミ
て曰カミ。河北カミも別カミ。替カミり。と。袁紹カミが虛カミ実カミと伺カミひ來カミ。も。滿寵カミ登カミ
と。滿寵カミ。玄德カイノミキ打驚カミひ。や。も。これ。公孫瓚カミが親カミ。あ。ま。ま
よ。と。且カミ。よ。滅カミ。ひ。と。ど。合戰カミの。す。と。詳カミ。小。注カミ。か。く。往カミ。満寵カミ、白
公孫瓚カミ。相カミ度カミ。戦カミ。負カミ。も。う。ど。ひ。と。冀州カミ。守カミ。大。城郭カミ。築カミ
と。高。大。樓カミ。造カミ。易京樓カミと名付カミ。三。方。石。兵。糧。野。軍。勢。

の出入りをもとめうらじ。ある日、手の勢、袁紹が大軍を圍み、城兵
に者共謀をして味方を救ふとし、公孫瓚怒てやるべく、味方の勢を打つよ敵
圍きよろと急々出でまとめて今より後、味方の兵命を奪。戰
ふる者一人もあはず。敵來となへて救つて求ひて。今たゞひとぐく
討をもとめ出でまとうふと。あぐづてといひえべ、諸軍をあ恨みと舍へん。
敵の大勢をもとて見て、太半門とし、ひて降へとある。而もまう
そ、公孫瓚力をもとへて、黒山の張燕よもじりて求め。ひそく約定
せし。救の勢火の手とあげて城中を一度討と出で。かこもはせ
んとて、書筒を送りなす。その使袁紹が伏牛を生取りけりと
袁紹書簡をじて見て、城外よりともげもとの勢のきたまくる
体とあらう。公孫瓚をつる。合団ともて、討と出よども。とぐく

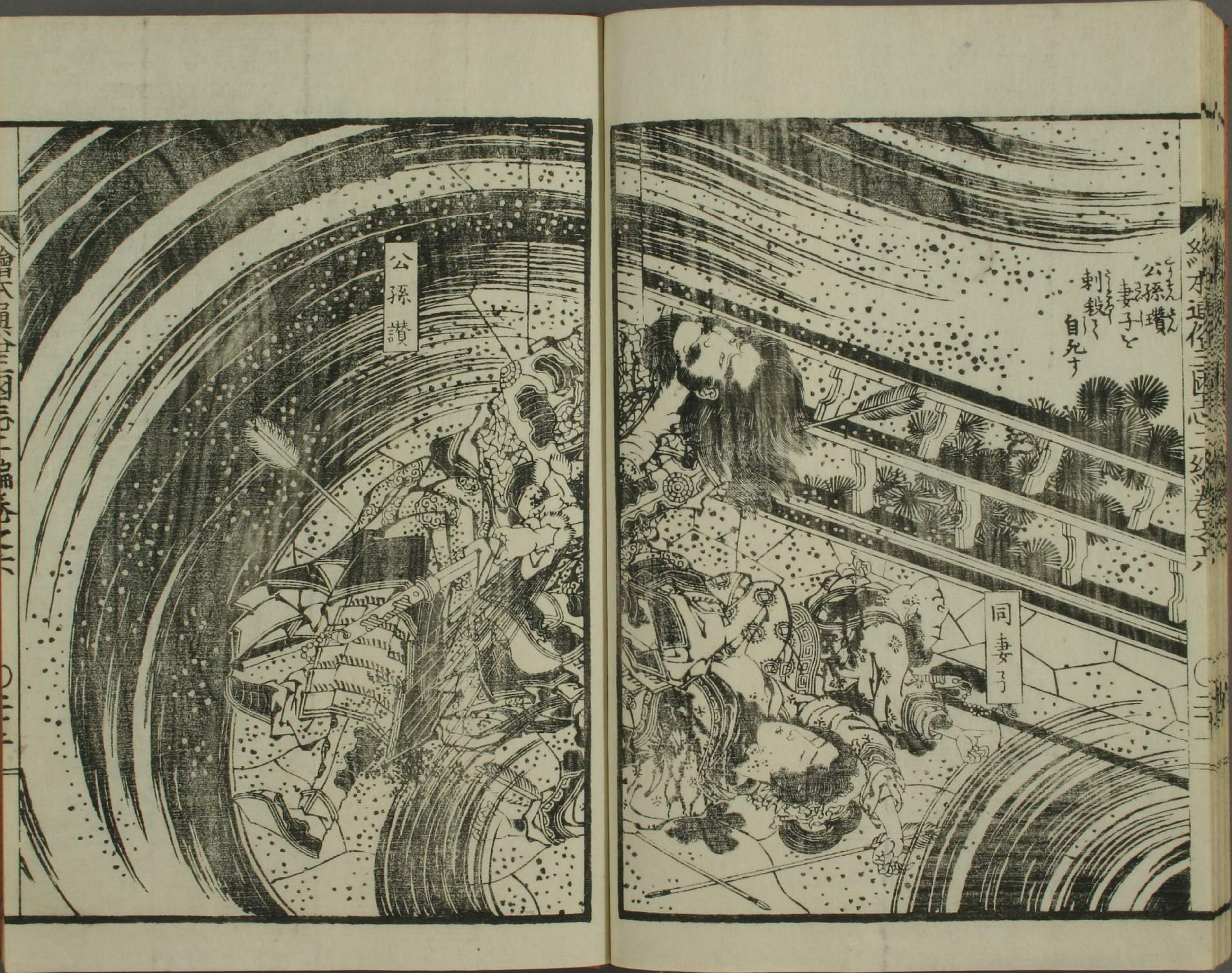
出立す。伏勢四方を起りて、さんぐよ戦ひ。公孫瓚残らず、あ
く。討をもとめ、ちうく、体中へ逃きへ。そくち袁紹地の底へ掘る。本陣
潜へば、とせく内外より、攻きまへ。公孫瓚逃るべれ路ある。妻子と
刺殺し。その身も自害して滅びぬ。袁紹降泰の勢とあへせ。遠
近とぞぐく、促ひ靡ひ畏きだをり。淮南をあらう。今、皇帝と称られ、ふ。その傲慢大よし。軍民を
恤きぬぎじゆ。手下のものども怨と忿へ。背くものあつ。軍民
すと皇帝の位を居てある。兄袁紹が方へ使と馳て。帝位を
贈。袁紹もとて、北平を攻取るをばく。帝位と望む。袁術が
國の王座をむとむ。袁術いま王座をむち。淮南を打弃。河北を行
く。兄と一緒に處をあらえども。二人かどあらせ。由へて、免へるをよひ。

丞相をもとよりは國をへて死ふ。玄徳奮然とて、トヤマニテ、氣を立てる。袁術も
一河北よ行な。かあじて徐州の路と通らん。某ねがくち一軍と引
き廻む。半途よて討止人曹操ある。御邊を行ひよ
とれ。我あくまつ患ひて。明日天子と妻を聞て往く。早く打立て。
ヨシ朱靈路昭とひふ二人の大將と相副。五万の精兵と借す。玄徳遂に
ほだの日相伴あひて朝に出曹操とのゆゑと奏す。玄徳遂に
ありどりに至る。帝も御涙と浮々と送りゆ。玄徳は家を眠りて取
のを取あへ。軍馬とそろへ。將軍の印と腰を付。赤をあそび出る
へ。車騎將軍董承ある。すと聞く。十里亭まで追募來り。日
あうの約とよきれど。常と曹操と株坐する計略をめぐらす。帝
の宸襟をやすりうり。玄徳の曰。御身よく慎みよ。まき此

度都と出る。實も日あうの計略とあそんである。必期か隠して書
簡と廻て告やむべ。董承は自將軍であらば。常と此事をもつて
勅命の重などよまれぬあと。涙を含んで別を告げ。玄徳はく
路といふと。关羽張飛あらへんと問うやう。兄いふればかあま
あつて。ゆこゆ。都と出ゆ。人ど。玄徳の曰。まきは籠の中の鳥。網の弔
の魚。あ。あらへ。都と出る。魚の大海上。鳥の青天。上う。曹操
の路服と催促す。と。日と繕いと。まのと。郭嘉。諸郡の巡
檢と出で回り。うちが。玄徳兵と引き。徐州へあむひまつて。りふと聞く。
うちのあくま駆け。まく。曹操を見よ。まく。永相保く。と。玄徳ま

軍と授ふひ。曹操が曰く。袁術が河北へ行と半途まで討え
為す。程昱も三出でやる。往日玄徳と豫州の牧と封づ
ふと。某は志りと諫やう。丞相遙々きておらず。今日まで
兵と接りてまき難と大海よなむ。虎と深山よえらじむ。あ
後いかにもあがこぐ。郭嘉が曰く。人かくもかくに。と。玄徳を
まう雄才あり。民の意よく。自順古。関羽。張飛。万人の敵。
人々の力と。あるものあらば。その計略の深たこと。あざげ。

と著と落とす。あ彼う計畧あり。あ本筋とあらん。丞相
の明す天下とぞ。何とと玄徳一人よ遠かされず。曹操
をとある。足ぞうしてある。まき誤り。もの人よ出接をたりと
も。長嘆。と後悔。たまう追蒐。や生捉き。もんと問ふ。人進
りとある。程昱がりと。閑一をと。野菜と。野菜と。雷と風を
い出でやう。某ねうか。五百余騎と率へ。玄徳と。挙りて
人といふ。諸人あきとぞ。虎賁校尉。許褚あり。曹操いと。是
りと。玄徳。許褚。百余騎と。飛と。飛と。とくと打ひ。關
羽。張飛。後陣と備ひ。後。馬。烟と。あが。大勢の衆がま
らを追手あらんと。玄徳。告まう。陣と。陣と。とくと打ひ。關
羽。間も。許褚。勢ひ。衆を。馳きたう。玄徳。左右。關
羽。張飛。まると。立つて。立つて。急。もあらん。集ひ



うへど。まことざと一う。玄徳問て曰く。校尉あるとす。あとは乗る。許
褚ちよ曰く。丞相の命めいす。將軍を率はく兵ひと某もと渡わたす。都つゝ回まわす
べ。玄徳の曰く。古より大將外そとす。あくまで君の命めいも受うけざるを
思おもふ。天子てんしよアヘ。詔せう勅てきと委まかす。又丞相の命めいを蒙くわりす。さとで是
まことに打出だしゆつす。御辺ごへんにあれ。かるべく來くわり。まきと代からんと
る。程昱とういく郭嘉くわい徒むをり。賂まわいとみみる。我さらまわる。我
さりーや。懷いだりよ丞相とうしやうと魏ゑい言いふ。まじく
ホほがおどれ。不義ふぎの徒むといます。又斬さて人ひとをれど。我わらわく丞
相とうの恩おんと受うけこれた。まづびざびざる。不まある。御辺ごへんと追おひる。まく。你
くいひもと。馬まとそややそ去さく。人ひとを許きす。褚ちよをへたす。まく。ひふ
くくへり。曹操さうばう右うのあひひと諸しよる。曹操さうばうあきと聞き。程昱とういく郭

嘉せやと責せらす。你なおひそうに。玄徳げんとくと賄まわい賂まわいととか。彼かれがあく
ざりーや。恨うらいざり。惡あきまつ。魏ゑいとかまろ。あくど。玄徳げんとく
りとす。我われとひくふ。程昱とういく郭嘉くわい頓とん首しゅとやくる。丞相とうしやう
あきと。亦また玄徳げんとくが詆つけとと信しんて。却がくと某もと疑うそ。曹操さうばう
笑わらひ。白しらく。彼かれと遠とおめ。再なび追おは。まきと恨うらいと調はん
まさん。我われと你なおひそうととが。你なおひそと安やすんせよ。と。座くわと起ある
が。内うち半はん信しん半はん疑うそ。と。決けつせざざ。と。然おのく董承とうしよう。味み
や。ひとた。曹操さうばうと討うへと計くらべ。西涼州せいりょうしゆの太だい守しゆ馬騰ばとうも。玄徳げんとく
都みやこと出です。と。事ことき。う。成なが。う。思おもひ。ばらふ。不ま。
國くにへ。胡ごの勢ぜい。寄よると沙汰さわす。と。遂ついと。西涼せいりょうへ。回まわる。

關羽驚斬車胄

時ときは建安四年の六月。玄德げんもくが徐州じゆしゅうより下くだり、着きせられ、自じらじてじる。曹操作さくさくを太守たいしゆとし、自じらじてじる。車騎將軍しゃぎじょうぐん車胄しゃくををむへ。城中じゆうに請うけて酒宴しゅうえんをまわけて持もきて、糜竺みの孫乾そんかんホホきたりたりとへけれを玄德げんもく旧宅きゅうたくに入いる。妻子さいさいをあひ、そのち人ひとと出でて袁術げんじゆが消き息きをうねまます。袁术げんじゆの位いと替かへて淮南淮南ををくといあり。袁术げんじゆが殺され、相あづづくものあどけ背そむて雷薄らいばく、陳蘭ちんらんといふ二人の大お將じよも嵩山こうさんへ落おち去はり、あきづあきづ勢せいをひ裏うらへて、人ひととあひきむあひきむとあり。袁绍げんじょうが方ほうへ帝だい号ごうと迷めぐつたる。その書かもえ書簡しょかんをあひて兄袁紹げんじょうが方ほうへ帝だい号ごうと迷めぐつたる。その書かを曰いく。

漢かん之失天下じしよ一久矣。天子提攜ていけい政せい在家門まごと豪ごう

傑あきらめ角逐かくそく分ぶん力りき衣い疆きょう而より此こ與周ゆ之末まつ年ねん七國しこく分ぶん勢せい無む異い卒そつ強きょう者しゃ更かわ之の耳の袁げん氏し受うけ命めい當とう王おう符ふ瑞ずい炳炳然ぜん今いま君くわん權けん有う四よ及およ民みん户戸百萬ひゃくまん以い疆きょう則そなへ無む與よ比ひ大だい論ろん德とく則そなへ無む與よ此こ高たか曹そう操そう欲おほ扶ほ衰あ拔ばく弱よ安あん能のう續つづ絕ぜつ命めい救きゆう已い滅めつ乎う今いま納な上じよう帝だい号ごう請うけ早はや即あつ皇帝こうりょう位い共とも享こう萬まん世せい之の洪こう基き不ふ可こ失しつ此こ機會き傳つた國こく璽じ續つづ當とう獻けん上じよう弟だい術じゆ百ひゃく拜めい。

袁紹げんじょうとすす天下じしよの望のぞをあつねねた。その書かをうへて、がだりあく喜よび袁げん術じゆと河北かほくよえどどもに力ちからと併あわせんせんて、おもよすよそ袁術げんじゆ淮南淮南を打うちききとと打うちす。人馬じんばを收拾しりつし、天子御用ごゆうの物ものを車くるまを載のせ、とて徐州じゆしゅう乃の

界まで走り。玄徳がのぞと聞く。五方の勢ととうへ。要害を侍懸か。袁術が先陣紀靈打破り。通らんとする。張飛も怒り。直馬と十合あり。戰ひるが。すみどりへ雷のこと。紀靈と一鎧きりさて。ころへ袁術先陣の乱き。くる。兵と駆とをもれ。玄徳兵と三手ある。内うち中軍と守り。關羽。張飛と右備。朱靈。路昭と左備。真先馬と出。袁術匹夫。汝大逆無道は。みどりに帝号と僭と。まきしま勅命を受。你と討。もととやうに降参せし。命をうりと助け。と大音上く罵り。袁術怒り。トクろの席と犠復と售たる。小輩。あへど。まきとがく。ととく。兵と下知と討。東北。玄徳の左右とそあへる。一手の勢ひえ。あへせ。戰う。大とちう。と。操とりしづ。袁術が

人馬乱立。討ともね。とく。血があれ。泉のあと。屍も積。と。丘のじよ。また。小袁術と宵。嵩山へ落たる。雷薄。陳蘭。思ひも寄。その後。とひ。兵糧財室の車。とぐく奪ひ。うれ。袁術。進退。まつたり。回る。見路。いざんと案。ドロ。がく。か絶え袁術が通ると。まじ。近圍す。あ門まつち。強盜。溢きもの。ども。昼夜と。あへ。と。襲ひ。あひ。と。首を。戦う。べ。力もあへ。這く。江亭。まづ。引退。だ。す。相従。の。勢。次第。も。減して。老弱にして。肥ふ。まてる。を。か。と。と。千余人。を。残り。そ。み。り。なる。況。へ。炎天の暑氣。あへ。と。兵糧。益。り。麦の屑。三十石。を。う。り。あ。う。り。ると。軍士。あ。ち。お。ど。ま。と。と。ど。と。餓死。ま。る。も。麻。と。乱。せ。る。ど。と。袁術。も。妻の屑。と。食。と。と。も。よ。咽ぬ。さ。ぎ。り。と。入。ぎ。り。と。入。ぎ。り。と。露水。と。り。と。う。と。

渴どやらんといふ庵人あえや。口血水があれども密水（しづす）へほといひ
くれを。袁術大よ号んど。床のうへすり地（ち）よ落血と吐と一斗あり
よしと。卒よ死け。姪の袁胤（あいそん）。みの屍と奴ら。妻子と道具。
廬江（ろうちやう）にさしも外れる。廣陵の徐璆（よしう）とよもどり討取（とうしゆ）。
傳國の玉玺と曹操（さくばう）が方へらうるまび。曹操（さくばう）あまく賞（かわらし）。
徐璆（よしう）と高陵の大守（だいしゆ）。玄德（げんとく）ハ袁術（げんじゆつ）が亡くする。
ときて表と上つて。朝廷（こうてい）よ奏す。朱靈路昭（しゆりゆうじょう）と曹操（さくばう）が
方へ回ら。小都より徒（徒歩）が来る。五万の勢と徐州（しゆう）へとやる。界と
守らせ。恩徳（おんとく）と布（ふ）とほ。民と恤（あつ）と々を。國中をとぐく。悦服（えつぶく）。
朱靈路昭（しゆりゆうじょう）と都（とく）よへり。曹操（さくばう）よ見へ。凡れ曹操（さくばう）なりの勢。び
きひまらざると怒り。首と刎（きり）と。荀彧（じゅんに）連とモラ。丞相と

でよ玄徳と。總大將と。あひと。又。權柄と。玄徳一人よ飯を。朱
靈路昭（しゆりゆうじょう）の手下（しも）よあつと。下知と聞（きく）。のなり。つんとくはりと
ひ。よじとうに。書簡（しょけん）と。つと。車曹（しゃそう）よ計畧（けいらん）と。さばけ。玄徳と。あき
いと。討（とう）しよ。又。曹操（さくばう）たのまげと。やまく。ひとうに。徐州（しゆう）へ使
もと。計畧（けいらん）と。傳へ。車曹（しゃそう）書房（しょぼう）のあむひとと。と。陳登と。呂
ト。ひと。議（ぎ）。陳登（ちんとう）よ。玄徳と。あろと。と。まのやく易
し。城門（じょうもん）よ。兵と。伏毛。玄徳と。まねり。と。内へ。入と。と。刀と。射
ゑ。某（それがし）ハ。天倉（あまくら）のうへ。する。繙（ひるが）。敵（てき）と。射（し）。と。刀と。射
兵の手配（てび）と。と。玄徳と。酒宴（しゅえん）よ。招く。陳登（ちんとう）へ。家と。入り。父と
陳珪（ちんけい）よ。事の。やうと。語る。陳珪（ちんけい）よ。玄徳の仁者。あり。あよ
殺（ころ）。よ。あ。の。び。る。你と。ゆ。行。と。告。も。よ。せ。と。陳登（ちんとう）が。曰く。某。小。玄



徳と殺さるをあつて。ひだりとで。計畧とそぞれを。作らる。直
ちよ行そ。関羽。張飛。又あり。企とのやうと詰る。張飛。きくも
あくも牙と咬ぐ。をゆく城中へ討そ入へとひきかくと。関羽。あーと
どちとやくろん。彼己不負と城門を休ま。うろぐしく入ば仕損を
べ。此よりとさむを示す任せよ。まき一門の計畧。お。松深方。
曹操が入る。軍兵とさむむけと詐り。車胄と出抜く。
城より布久呼出し。引組と生捉。せん。まざあつる。と玄徳。
あくセヤ。ま。張飛。白く。彼り。城外へ出さうと。せん。関
羽。白。つき。期。よ臨んで。一計。あつとく。幸い。都うち来まる。の
どもの内小曹操が旗幟。あつま。あると。先。小さく。をそとの
よ。えみ。かく。のほと。ふと。門とひきと。呼く。りきと
夜の二更。ふ。壕のほと。ふと。と。門とひきと。呼く。りきと
が

内。す。何者をく聞よ。登。じやうら。あき。ハ都。す。曹丞相の大。す。あ
そ。張遼。と。は。むすり。す。も。ゆく。門と。開て。入り。車胄。あき。と。まじ。そ。い
と。を。陳登。と。ぐく。やくろ。深更。よ。又。人。ぞ。挺く。門と。ひく。と。わ。
い。ま。る。詠。り。の。計。あ。く。も。あ。ま。と。れ。ど。も。も。ま。と。の。張遼。正
相。の。大。す。あ。く。來。り。す。も。入。だ。を。後難。又。の。計。あ。く。と。我。い。之
と。も。決。ま。と。と。得。だ。と。と。と。三。げ。う。ら。失。倉。よ。の。おり。大。音。あ。げ。と
や。ら。う。ね。れ。を。実。否。と。わ。き。す。へ。が。し。次。あ。く。る。ま。ぐ。ハ。門。と。ひ。く。
す。く。ひ。ぞ。と。ひ。な。れ。を。城。外。も。り。や。く。と。互。機。密。の。大。年
あり。ね。の。ぬ。る。と。ま。門。そ。ア。カ。と。と。ひ。悔。よ。と。と。ひ。ぶ。ま。あ。と
そ。張。遼。と。疑。づ。ふ。る。へ。ど。と。ひ。く。ま。く。へ。車。胄。い。き。せ。ん。と。あ。と
よ。ら。ふ。と。と。ゆ。立。更。の。ひ。つ。よ。あ。り。と。ま。く。と。鑑。る。精。兵。千。余。騎

と相従^{あへ}て門^とへひきこ^と手^とか^と刀^と提^く。壕^と橋^うけ。張遼
はらがくよ居たま^とぞとひふ。關羽^{ハ十二}斤^の青龍刀^を
をぬか^とと馬^と駆^す。元^{まい}うちを。玄德^とあろさん^とどもを
と繫^のり^とれ^た車^と胄^とは^とうと^とあ^べ。戰^ひび^る。叶^など^と引
うへ^と陳^と登^と内^と。城^と門^と閉^と。兩^の降^とく矢^と放^る。車^と胄^と
東^とせん^と。何^とう志^とう^と。一刀^と斬^と落^し。首^と頭
い^くと^頭う^と。城^とと^と走^り。關羽^{さう}追^う。追^う。首^と頭
城^と下^とえ^と。反^と賊^と車^と胄^と。とでに誅^た。降^ら。命^と助
けん^と呼^り。城^中の^とども。とぐく地^と拜^し。降^ら。人^と請^問。關
羽^と人^と安^ん。車^と胄^と首^と提^げ。玄德^と見^へ右^のあむむを
と。とおじう語^ふ。玄德^とあどろ^た。曹操^とうら改^來らぶ。

々せんと怕^きゆ。關羽^とりる。某^と張^と飛^とも。お^きと防^ぐ。玄德^と
後悔^と。ヨモ^とあり。と。車^と胄^と殺^す。と。ものと。と。城^中
と入^る。人^と出^ひ。と。地上^と再^拜。と。と。府^と堂^と登^り。向
もう^と張^と飛^とへ。何^と行^う。と。尋^ね。と。不^と。張^と飛^とあ^とま^と。と。
と。來^り。と。と。と。車^と胄^と妻^と。と。と。殺^す。と。と。呼^へ
る。玄德^とあ^と憂^い。と。曹操^と大^と將^と。と。是^との。と。若
い。と。大^と軍^と。と。改^來。と。と。と。と。若^と。
と。と。深^く張^と飛^と躍^じ。と。戒^め。と。

